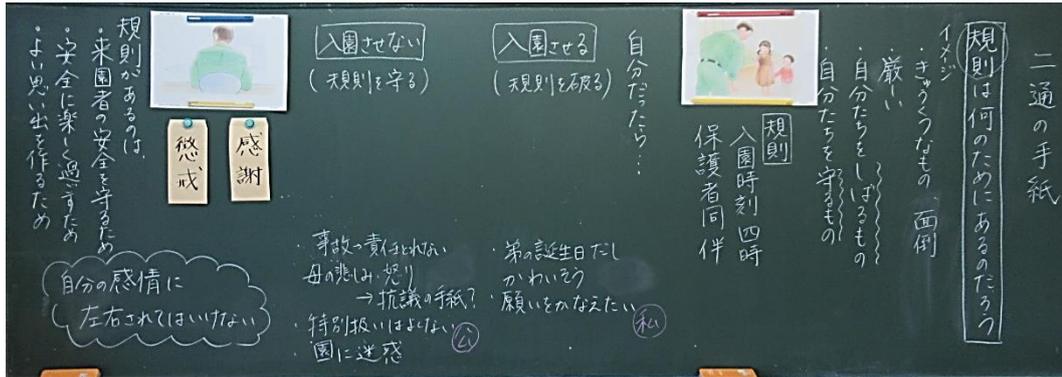


3学年 「二通の手紙」

規則は何のためにあるのだろう ~元さんは「優しい」のか~



幼い姉弟のために規則を破って動物園に入園させた元さん。閉園時刻になっても戻らない姉弟を園内職員で一斉搜索する。母親からは感謝の手紙、園からは懲戒処分の通知をもらう。

自分だったら「入園させる」「入園させない」?それぞれにネームカードを置きました。=2024年7月, 3年3組

授業では自分だったら「入園させる」「入園させない」に分かれ、最初に同じ考えの人、その後異なる考えの人と自由討論をした。「幼い姉弟の願いを叶えたいという元さんは優しい」「万が一姉弟に何かあったら責任とれますか?それが優しさですか?取り返しがつかないことになる」。3年生らしく活発な意見交換ができた。「入園させる」側も「姉弟を危険な目に遭わせることは絶対にあってはならない。自分がついていくなど、安全を確保すべきだった」「子どもが安全ではないから入園させない、というのも優しさ」「規則は窮屈なもの、しぼるものというイメージがあったが、規則を守ることが来園者、もっと言えば社会のみんなが安心して楽しく過ごすためには必要だと思った」という感想をもった。



明日への扉を開く鍵

今回も「学校図書館」の本中心。



学年フロアのブックトラックから、道徳に関する図書を紹介していきます。自分の視点を広げたり、考えを深めたりするきっかけにしてみましょう。

視点・鍵: 規律ある安定した社会の実現 — 遵法精神・公德心 —

「僕らが生きているよのなかのしくみは「法」でわかる13歳からの法学入門」
遠藤研一郎 大和書房 320エ (2019年初版)

法律の基礎の基礎が、ストーリーマンガで分かりやすく説明されている。日常生活に「法」はあって、私たちはルールの中で生きている。「どうしたらいい社会ができるのだろうか?」を、「法」を通じて考えるきっかけになる本です。



「檻の中のライオン」 椋大樹
かもがわ出版 323ハ (2016年初版)

「檻=憲法」「ライオン=権力」に例えて憲法の基礎知識をおおざっぱに解説してくれる一冊。「なぜ憲法があるのか」、とても理解しやすい。



●きまりは一人一人を守るためにある。

労働法関連の本です。働く前に、知っておこう。

「子ども労働法」 山下敏雅・笠置裕亮 日本法令 366ヤ (2022)

「これを知らずに働けますか? 学生と考える、労働問題ソボクな疑問30」
竹信三恵子 ちくまプリマー新書 S366タ (2017)

「わかる! 使える! 労働基準法」 布施直春 PHPビジネス新書 S366フ (2011)

